

14. 医療の改善活動（TQM）

医療の改善活動（TQM）

（平成27年4月～平成28年3月）

平成 27 年度 TQM 発表会報告書

TQM推進部会

日時:平成28年3月23日(水)17:00～18:30

場所:健診センター2階大講堂

参加者:86名(診療部7名 看護部39名 診療技術部33名 事務部7名)

発表:7チーム 発表時間10分

◎=発表者

テーマ	チーム名	メンバー	発表内容
日直・当直の節電活動 ～病院から地球のため出来ることから少しずつ～	2015検査科TQM チーム	◎新山 尚司 箕岡 博 渡部 貢 須々井 尚子	日勤当直帯におけるに検査周辺機器,空調,照明の使用状況と節電意識から何の検査周辺機器,どこの空調,どこの照明をいつ,どんな時に消すのか決め取り組んだ結果,90%以上節電行動ができた。
とろみ粘度の資料を活用し,安全なとろみを提供しよう	NST嚙下グループ	◎森本 淳悟 吉永 洋子 吉野 昭子	安全なとろみの提供を目的に,正しいとろみ調整方法を実施するため,病棟に出向き勉強会の実施,とろみ調整パンフレットの見直しを行った結果,調整方法は知っているがとろみ調整は確実にできていなかった。今後,継続してとろみ統一の活動継続が必要。
地域包括ケア病棟への転棟におけるスムーズな看護の継続	地域包括ケア病棟 TQMチーム (5階東病棟)	◎平木 翠 大谷 美保 吉川 裕子 世羅 節子	一般病棟から地域包括ケア病棟へ継続した看護実践のための申し送りがスムーズに行えるため,チェックリストの作成,看護情報提供所の活用を実施した結果,申し送り事項が明確になり情報の整理ができ看護の継続につながった。
家族・看護師・リハビリ間での患者の体動能力の情報共有 ～情報共有ツール「シェアウォッチ」を導入して～	分かち合い隊 (リハビリ科)	◎湯浅 美聖 崎元 直樹 榎原 伸一 村山 留美	家族を含めたスタッフが患者の体動能力について共有し退院調整を進めるために,患者の体動能力共有ツール(シェアウォッチ)を作成し活用した結果,導入後は,病棟状況・リハビリ状況ともに共有状況が改善し,家族・リハビリ間の情報共有の比較では有意差が認められた。
病院ホームページの継続的な刷新が行われるために	ホームページ刷新 隊(病院企画課安全管理係)	◎五反田 悠己 村川 真一 牧原 健治 坂口 福則	病院ホームページが継続的に刷新していくために,ホームページ更新手順,フロー図を作成し,広報委員会で決定,実施した結果,担当者が1名から18名と担当者が明確となり,2か月半で20件の更新があった。
地震発生時に手術室の安全を守ろう	オベDMAT (手術室)	◎前田 洋志 落合 豊和 石原 育美	手術中に地震が発生した際,職員個々が不安なく対応できるように,震災マニュアルの作成,勉強会,シミュレーションの実施により役割実施点数アップとなり,災害対策への意識の向上につながった。
CT造影検査における飲水率向上	おみずクラブ (放射線科)	◎谷川 淳 原田 典明 宮野 音努	造影CT検査前に飲水制限はないが,飲水していない患者が多くみられるため,副作用を起こさないために,検査説明用紙の改定,医療者向け研修会の実施,ポスターにて啓蒙を実施し,飲水率が23%から98%へ向上し,副作用も発生しなかった。

以上の発表を最初から聞いた方に上位 2 チームを選んでもらい投票,上位3チームが決定した。

1位 分かち合い隊(リハビリ科)

2位 おみずクラブ(放射線科)

3位 オベDMAT(手術室)